

# 「小江戸」を掲げる地域の観光パンフレットの言語表現にみる街のイメージ

## The Image of Towns Promoting as KOEDO through an Analysis of the Words in Sightseeing Brochures

奥山研究室 09M30109 香月 歩 (KATSUKI, Ayumi)

Keywords：街のイメージ、小江戸、観光パンフレット、言語表現  
image of towns, Koedo, sightseeing brochure, words

### 1. 序

高度経済成長期以降<sup>1)</sup>、全国の市町村では自治体や住民が街の活性化を目的として、固有の文化や風土から街の個性を見出し、それを主体的に発信する取組みが行われている。そのひとつに歴史的要素を街の価値として提示する地域が挙げられる。なかでも「小江戸」を掲げる地域は、近世の大都市江戸の名を借用することで街の歴史的価値の向上を試みているが、江戸という言葉が都市空間、風俗、時代性など様々な意味をもつこと、また江戸とは直接関連しない街固有の歴史に関連した要素を併せて提示する地域もみられることから、各地域では多様な「小江戸」性が解釈され、独自の街のイメージが提出されていると考えられる。そこで本研究では「小江戸」を掲げる地域<sup>2)</sup>の観光パンフレット上に記載されている紹介文を資料に、その言語表現を分析することで、現代社会における歴史的価値の転用による街のイメージ形成の一端を明らかにすることを目的とする。

### 2. 言語表現に提示された街の価値の意味内容

「小江戸」を掲げる地域（以下、「小江戸」）の観光パンフレットでは、街の歴史、見所、名物といった要素がキャッチコピーや紹介文などの言語表現<sup>3)</sup>によって示されている（図1）。本章ではそこに記述される内容を地域が街の魅力として提示する価値と考え、どのような要素が（対象）、どのような付加価値を伴って（差異化表現）提示されるかを検討した（図2）。

**2-1. 対象の分類** 街の価値が投影される対象は、街の全体像から土産物などの物品まで様々なスケールの内容がみられる。これらを大小関係から序列化して整理し、【全体像】、【街並・道】、【建物・史跡】、【モノ】、及びこれらの序列に位置づかない【活動・現象】、【山・海】に分類した（表2）。【全体像】は街の総称など漠然とした街全体のイメージに関するものである。【街並・道】は、街において面的あるいは線的に広がる一定の範囲の空間を示すものである。【建物・史跡】は街に点的

表 1. 資料リスト

no.	地域名	道府県名	10. 本庄	埼玉県	20. 下諏訪	長野県	30. 岡崎	愛知県
1.	松前	北海道	11. 木更津	千葉県	21. 南木曾	長野県	31. 半田	愛知県
2.	水戸	茨城県	12. 野田	千葉県	22. 妻籠	長野県	32. 龜山	三重県
3.	土浦	茨城県	13. 佐原	千葉県	23. 馬籠	岐阜県	33. 関	三重県
4.	古河	茨城県	14. 大多喜	千葉県	24. 美濃加茂	岐阜県	34. 彦根	滋賀県
5.	結城	茨城県	15. 甲府	山梨県	25. 太田	岐阜県	35. 富田林	大阪府
6.	真壁	茨城県	16. 塩尻	長野県	26. 静岡	静岡県	36. 竹原	広島県
7.	栃木	栃木県	17. 奈良井	長野県	27. 蒲原	静岡県	37. 萩	山口県
8.	甘楽	群馬県	18. 茂田井	長野県	28. 丸子	静岡県	38. 日田	大分県
9.	川越	埼玉県	19. 海野	長野県	29. 由比	静岡県	39. 杵築	大分県



図 1. パンフレットの構成

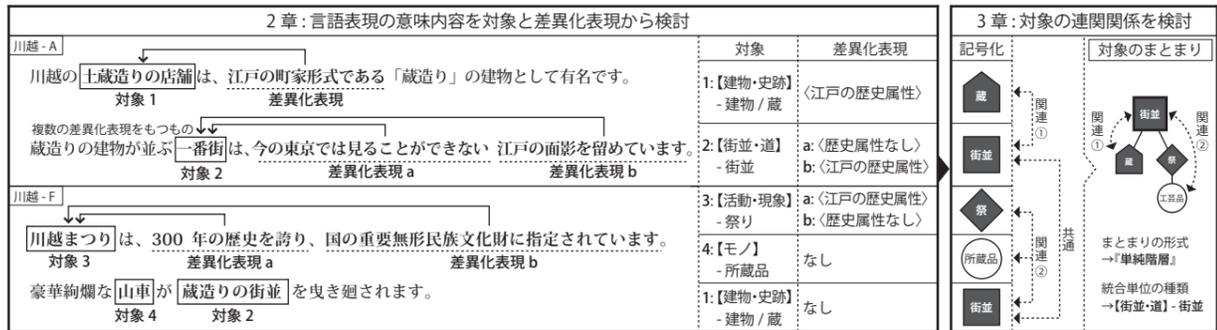


図 2. 分析例

に存在する要素を示すもので、全ての対象中最も多くみられた。【モノ】は所蔵品や食品などの物品である。【活動・現象】は祭りや地域ゆかりの人物などの非実体的な要素である。【山・海】は街の周辺にある要素で、少数みられた。

**2-2. 差異化表現の分類** 対象の個別の価値を高める差異化表現について、ここでは特に江戸に関連した来歴や由縁を示すものに着目し、〈江戸の歴史属性〉として分類した。また、江戸との関連のない歴史性や古さを示すものを〈その他の歴史属性〉、歴史性によらない価値を示すものを〈歴史属性なし〉と分類した（表3）。〈江戸の歴史属性〉の内容はその多くが成立時期や史実といった江戸時代からの来歴で、他には江戸時代の人物との縁故や、近世都市江戸との関連性などもみられた。

**2-3. 対象と差異化表現との関係** 抽出した対象がどのような差異化表現と共に示されるかを検討したものが図3である。その結果、〈江戸の歴史属性〉は【全体像】、【街並・道】、【建物・史跡】で特に多くみられた。それに対して〈その他の歴史属性〉と〈歴史属性なし〉は共に【モノ】及び【活動・現象】で多くみられた。このことから、全体像や街並など街のイメージの輪郭となる要素には、江戸との関連性という街の「小江戸」性を担保する価値が投影され、工芸品や祭りなどの空間的ではない要素には、個別の歴史性や現代的な価値といった街の独自性を担保する価値が投影される傾向にあるものと考えられる。

### 3. 言語表現に提示された「小江戸」の街の価値構造

観光パンフレットの言語表現では複数の対象が示され<sup>4)</sup>、その中には文章中で内容の結びつきをもつものがみられる。これらは、例えばパンフレット内の異なる文章において、建物と過去の人物との縁故が示され、一方でその人物由来の工芸品が示されることで、人物という共通する対象を介して2つの対象が結びつく場合や、1つの文章中に道とそこに建ち並ぶ建物や並木が示され、背景となる対象にその内容となる対象が結びつく場合など、対象同士に統合・被統合の関係を読み取れる場合がある。本章では言語表現に示された街の価値の意味構造を捉えるために、対象の統合関係を資料単位で検討し、完結した意味の結びつきからなる複数の対象のまとまりを見出した。また複数の対象を結びつける対象を統合対象と定義した（図4）。

**3-1. 対象のまとまりの形式** 抽出した対象のまとまりの形式について統合関係の階層性から整理した結果、統合対象を1つもつ「単純統合」と、複数の統合対象が階層的に結びつく「重層統合」とに大別できた（図5）。また、対象のまとまりの数から資料を分類し、対象のまとまりが1つとなる『集約型』と、複数となる『分離型』に大別した（図6）。

表 2. 対象の分類

【全体像】	【街並・道】	【建物・史跡】	【モノ】	【活動・現象】
43	99	234	97	78
地域 32 寺社 15 神社 9 城 30 (城7城址5藩5天守3櫓3門3) 家・屋敷 28 その他 9	街並 25 道 49 街道 27 (中山道8 東海道4 甲州街道2) 城下町 9 峠 5 小路 4 枅形 3 坂 3 曲り道 2 通り 2 国道 限定なし 2	建物 152 寺社 32 (寺15 神社9) 城 30 (城7城址5藩5天守3櫓3門3) 家・屋敷 28 (武家屋敷 4 町屋 4) 店舗・商家 26 (旅館6 問屋3) 蔵 9 門 7 陣屋 5 問所 3 工場 2 藩校 奉行所代官所 賣自改所 茶室 限定なし 5	所蔵品 25 山車・神輿 6 仏像 4 仏具 2 行灯 2 出土品 2 その他 9	祭り 17 山車祭り 5 その他 12 芸能 7 奉納演技 3 囃子 3 民謡 周遊 12 霊場巡り 3 七福神 2 渡し 2 その他 5
宿場町 21 城下町 9 商店街 2 商家町 2 温泉街 寺町 港町 その他地区 6	河川 18 川 12 水路 4 運河 2 町割り 5 田畑 2	各種施設 20 資料館 5 テラコッタ 4 文化施設 4 その他 7 公園・史跡 25 公園 6 史跡 6 庭園 5 遺跡 4 湖 4	食品 23 醸造品 5 水産品 4 菓子 3 果物 2 その他 9	人物 17 江戸時代の人物 8 近代の人物 5 古代 2 戦国 現代 地域の人 9 体験 6 地名 2 香り 2 鐘の音 たるま市 神話 民話 文化 町並み保存活動
【山・海】 19 街の周辺に存在するもの。 山 7 海 6 渓谷 3 その他 3		建物部位 37 格子 6 石畳 5 石垣 1 白壁 3 海鼠壁 3 うだつ 3 その他 14	植物 10 桜 4 その他 6 水車 鐘 奇岩 鉢巻 権 灯 湯	

表 3. 差異化表現の分類

歴史属性あり 286		〈歴史属性なし〉 110
〈江戸の歴史属性〉 274	〈その他の歴史属性〉 123	
江戸に関連した来歴や由縁。 江戸時代からの来歴 233 継続性 93 史実 78 雰囲気 58 再現 5 江戸時代の人物との縁故 32 徳川家康 徳川家 徳川家光 徳川光圀 和宮 春日局 藩 藩主 井伊直弼 武田耕雲斎 吉田松陰 木戸孝允 高杉晋作 青木周弼 歌川広重 葛飾北斎 隠れキリシタ 近世都市江戸との関連性 22 地理的関連 10 文化的関連 7 経済的関連 5 (重複 13)	限定あり 72 来歴 55 明治 15 昭和 8 室町 5 近代 3 大正 6 鎌倉 3 弥生 3 古代 3 戦国 3 平安 2 中世 南北朝 飛鳥 縄文 1200 年前 1400 万年前 縁故 17 須佐之男命 小野小町 公方 織田家 武田信玄 運慶快慶 坪内逍遙 石上露子 野口雨情 岡本一平 正岡子規 新美南吉 限定なし 51 歴史ある 12 古い 10 伝統の 10 当時の 2 その他来歴 12	特有性 62 他からの優位性や独自性。 日本一の、北関東随一の、 街独自の、街の〆〆、など。 評価 45 他からの評価。 伝統的建造物群保存地区、 国宝、文化財登録、など 規模 21 大きさや数量。 二百万本の、500メートル 級の、急峻な、など (重複 18)

註)1つの対象に同じ種類の差異化表現が付随する際は1つの差異化表現として集計した。かつ内は重複数を示す。

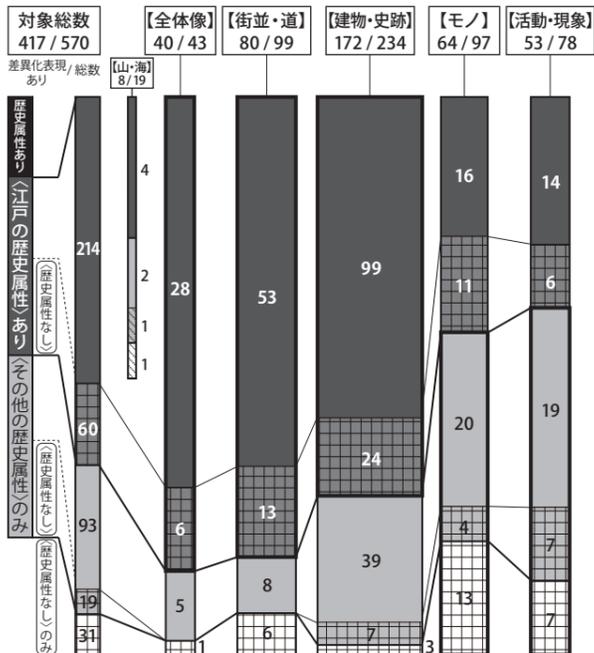


図 3. 対象と差異化表現との関係 註)〈江戸の歴史属性〉と〈その他の歴史属性〉が同時に付随する対象は11みられた。【街並・道】1 【建物・史跡】7 【モノ】13

### 3-2. 言語表現に提示された「小江戸」の街の価値構造

次に、対象のまとまりの意味内容について、統合対象の種類から[全体像型]、[街並・道型]、[建物・史跡型]、[活動・現象型]、[山・海型]の5つの型に位置づけた<sup>5)</sup>(図8)。**【モノ】**は前章で抽出した対象の分類では多くみられたが、統合対象となるまとまりはみられなかった。これらのまとまりの型と、前節までに捉えた対象のまとまりの形式との関係を検討した。その結果、[建物・史跡型]及び[活動・現象型]は単純統合のものが大半を占めたのに対して、[全体像型]及び[街並・道型]は単純統合のものと重層統合のものが同程度みられ、相対的に重層統合の割合が高いことがわかった。これら2つの型のまとまりについて、重層統合において従属的に現れる統合対象(以下、二次対象)の種類をみると、**【街並・道】**が多くみられ、**【活動・現象】**はほとんどみられなかった。このことから祭りなどの非実体的な要素は、他の種類の要素と関連して提示されにくいということがわかった。また**【建物・史跡】**は[全体像型]のまとまりで多くみられ、**【全体像】**は[街並・道型]のまとまりで多くみられた。さらに[全体像型]のまとまりでは異なる種類の複数の二次対象をもつものが半数程度みられ、その際は**【街並・道】**と**【建物・史跡】**の二次対象の組合せが多くみられた。以上から、特に多くみられた対象のまとまりについてその内容をみていくと、[全体像型]で**【街並・道】**及び**【建物・史跡】**の二次対象をもつまとまりは、俯瞰的に捉えられた街の全体像を示した上で、街並などの広がりのある空間から城などの点的な空間まで、徐々にズームするようなかたちで街の空間が示されるものである。**【街並・道型】**で**【全体像】**の二次対象をもつまとまりは、街の部分的な空間の様相を示した上で、そこにまつわる歴史や点在する宿場町などの地区を俯瞰的な視点から

提示するもので、以上の2つのまとまりに提示される内容は街の特徴を示す上で対照的な視点をもつものといえる。また、統合対象、二次対象共に**【街並・道】**となるまとまりは、街並や道沿いの景色など、特定の範囲の空間に特化した視点から街の空間が詳細に示されるものである。また、**【街並・道型】**のまとまりは『集約型』の資料の過半を占め(図8中、網掛部分)、提示される要素が1つの関連したものとして提示される場合は、部分的な街の空間描写がそれらの基幹として示される傾向にあることがわかった。

### 4. 「小江戸」と「小京都」の価値構造の比較

本章では、前章までに捉えた「小江戸」の街の価値構造の特徴を相対化するために、全国に存在する「小京都」を掲げる地域<sup>6)</sup>の観光パンフレット上の言語表現について前章までと同様の分析方法によって検討し、「小江戸」との比較を行う。

**4-1. 「小京都」の街の価値の内容との比較** まず、「小京都」を掲げる地域(以下、「小京都」)の言語表現から抽出した対象の内容を検討すると、**【山・海】**の割合が「小江戸」に比べて高かった。それに対して**【街並・道】**の割合は低く、特に道に関するものの割合が低かった(図9)。また、差異化表現をみると、京都との関連性を示す〈京都の歴史属性〉が〈その他の歴史属性〉より少なく、「小江戸」と対照的となった(図10)。このことから、「小京都」に比べて「小江戸」は都市的な性格が強く、明確な歴史性を伴う傾向にあるといえる。

**4-2. 「小京都」の街の価値構造との比較** 次に「小京都」の対象のまとまりについて検討すると、『集約型』の資料では単純統合のまとまりが多く、『分離型』の資料ではまとまりが2つの資料が大半となり、「小江戸」よりも要素の提示が簡潔となる資料が多いことがわかった(図11)。また統合対象の種

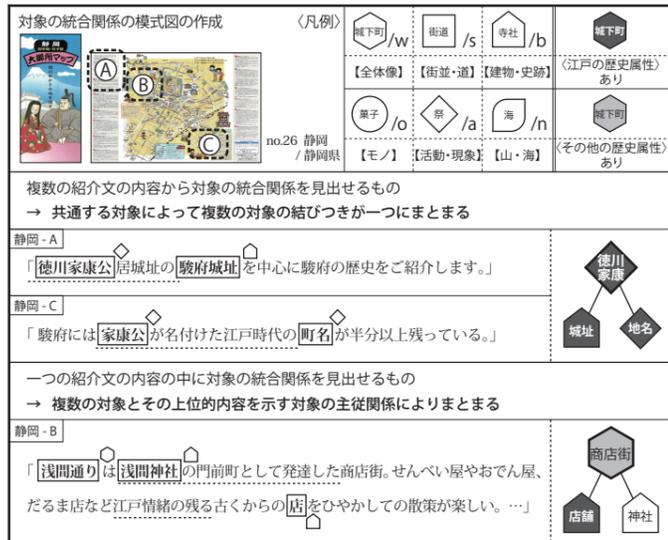
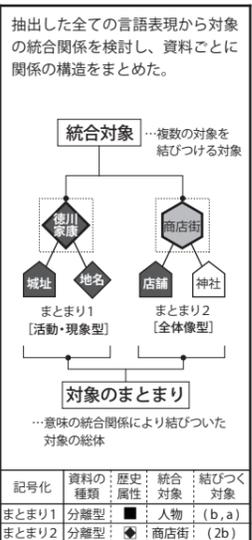


図4. 言語表現における対象の統合関係

註) 統合対象をもたない対象の結びつきの総体は15みられた。また、まとまりをもたない資料は2資料みられた。



抽出した全ての言語表現から対象の統合関係を検討し、資料ごとに関係の構造をまとめた。

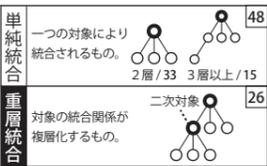
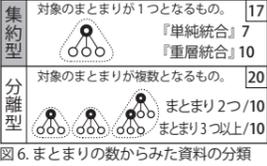


図5. 対象のまとまりの形式



統合対象	〈江戸の歴史属性〉			
	あり 41	なし 33	〈江戸〉のみ 13	〈江戸〉あり 28
まとまり	あり	なし	あり	なし
全体の対象	13	28	20	13
単純統合 48	12	13	11	12
重層統合 26	1	15	9	1

図6. まとまりの数からみた資料の分類

図7. まとまりの形式と歴史属性との関係

類とまとまりの形式との関係を見ると、「小江戸」に比べ[全体像型]で単純統合のまとまりが多くみられた(図12)。また[全体像型]のまとまりが『集約型』の資料の過半を占めた(図12中、着色部分)。以上のことから、「小京都」が街を俯瞰的に、簡潔な要素と共に示すのに対し、「小江戸」は街の空間を内部的な視点から捉え、その上で多くの要素を階層的あるいは並列的に提示することで、人やモノの集まる賑やかな都市的性格を価値として示す傾向にあると考えられる。

### 5. 結

以上、観光パンフレットの言語表現を資料に、「小江戸」を掲げる地域の提示する街のイメージを探った。その結果、街の非実体的な特徴は複数の要素の単純な羅列によって示され、街

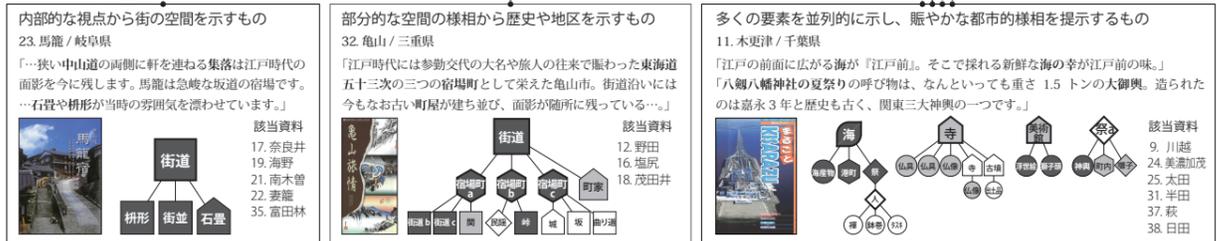
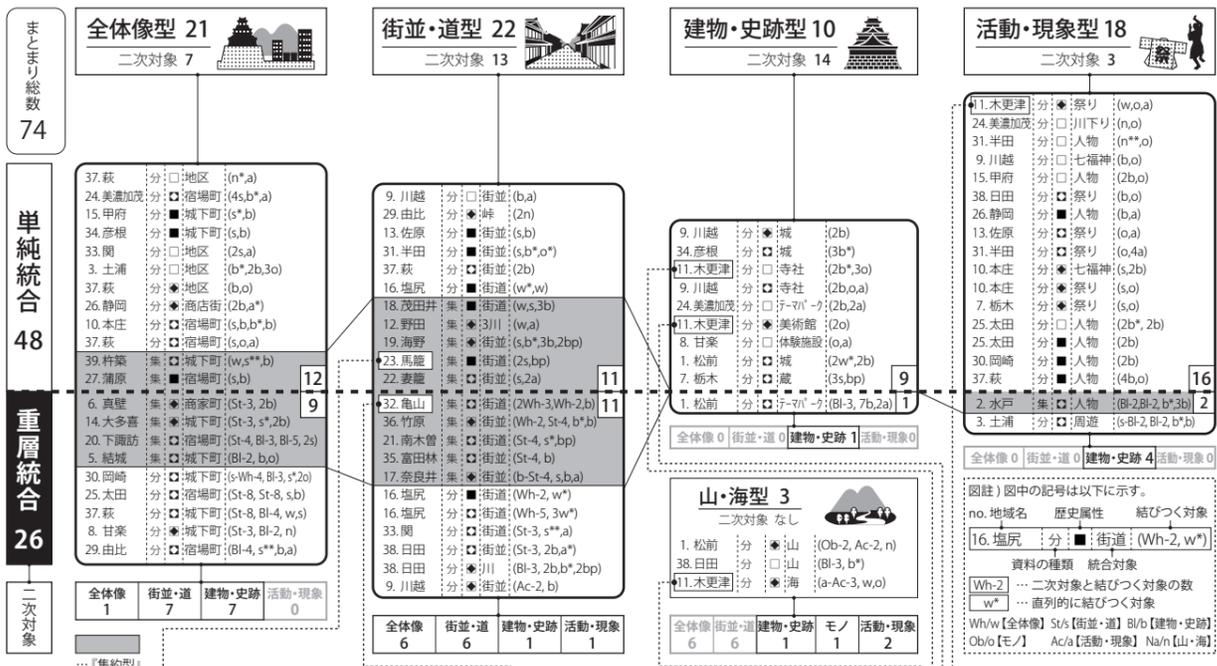


図8. 言語表現に提示された「小江戸」の街の価値構造

全体像	山・海	街並・道	建物・史跡	モノ	活動・現象
24	23	48	134	57	53
城下町10 商家町3 温泉街3 その他8	山13 海3 田畑3 その他4	街並18 河川15 道15	建物73 (寺社20城13屋敷13店舗10) 各種施設14 公園・史跡17 建物部分30	植木14 工芸品12 食品12 所蔵品9他10	祭り12 偉人9 地域の人8 芸能6他18

図9. 「小京都」の対象の分類

歴史属性あり	歴史属性なし
213	61
〈京都の歴史属性〉72	〈その他の歴史属性〉141
京都との関係性14 平安時代の来歴8 小京都の雰囲気48	江戶56 明治5 戦国4 中世4 近代4 桃山3 昭和3 限定なし58
	優位性30 評価19 規模10

図10. 「小京都」の差異化表現の分類

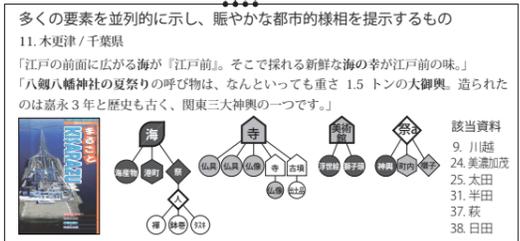
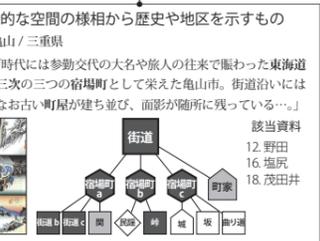


図9. 「小京都」の対象の分類

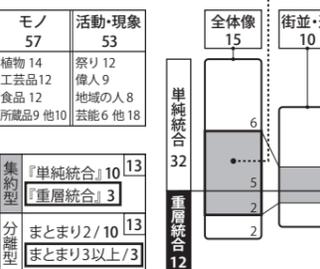


図11. 「小京都」の資料の分類

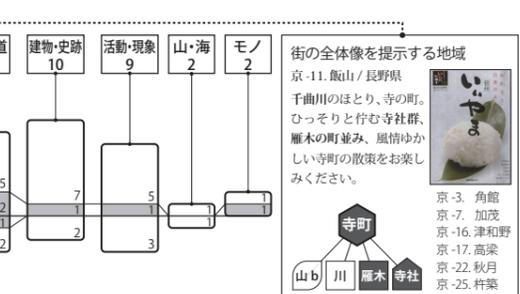


図12. 「小京都」の街の価値構造

の全体像や街並みなどの空間的な特徴は複数の要素の階層的な結びつきにより示されるという傾向を見出した。さらに「小京都」を掲げる地域と比較検討した結果、「小江戸」では内部的な視点から捉えられた街の空間を特化して示し、さらに様々な要素を併せて示すことで、都市性の強い賑やかな街の様相を体験的に提示するというイメージ構造の特徴を明らかにした。

- 1) 田村明、『まちづくりの実践』、岩波書店、1999年、p122-123
- 2) ここでは2011年12月の時点で確認できた「小江戸」を掲げる39の地域の観光パンフレットを資料としている。
- 3) 本研究では歴史的価値の転用による街のイメージを明らかにするため、観光パンフレット内の言語表現のうち、そのものの来歴に関する記述があるものを抽出、検討した。
- 4) 全ての言語表現において複数の対象がみられた。(最小で2対象、最大で3対象)
- 5) 本研究では「統合対象」が街の魅力を示す基幹と捉え、対象のまとまりの評価軸として検討した。
- 6) ここでは2011年12月の時点で確認できた「小京都」を掲げる26の地域の観光パンフレットを資料としている。